

職員による自己評価

A 環境面

- ・スペースは広くはないが、学習スペース、遊びスペースに分かれており、子どもが切り替えをしやすい。
- ・活動に応じて、ロッカーや机を迅速に移動できるレイアウトである。
- ・トイレが離れているので、慣れるまではタイミングなどに気を付けなければならないが、共有スペースを歩くので、そこでの指導もできる
- ・周囲に公園が多く、また地区センターもあるので雨天時にも外遊びに行きやすい。

B 児童への支援内容

- ・毎週違う面からのアプローチによるプログラムを実施し、子どもの能力を引き上げるよう努力している。
- ・療育分野を多く取り入れ、通所児童・生徒に合った支援ができるよう努力している。
- ・家庭との連携をさらに密にして支援をしていきたいと思う

C 関係機関との連携

- ・研修会への参加。他事業所への見学、学校との連絡を実施しているが、もっと機会を増やしていきたい。

D 保護者への説明責任・信頼関係

- ・トラブルや、その日の様子で連絡すべきことは、連絡帳や送迎時の会話などで伝えるようにしている。
- ・定期的に個人面談を実施している
- ・概ね良好だと思う

E 非常対応

- ・様々な場面を想定して、火災、地震、不審者訓練を定期的に行っている

保護者による評価

A 環境面

- ・部屋がやや狭め
- ・手洗い場、トイレが別なので移動がやや大変。
- ・職員の専門性についてはあまりよくわからない。

B 児童への支援内容

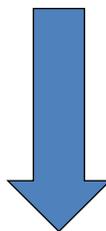
- ・子どもがプログラムを楽しみにしている
- ・毎週楽しみ、と言っている

C 事業所からの情報発信

- ・懇談会など、仕事で参加できなかったときは資料を頂きたい
- ・保護者同士の連携はあまりない

D 非常対応

- ・訓練がいつ、どのようになされているのかがよくわからない



事業所内での分析

【共通点】

プログラムは多様で、利用児童の療育的効果が職員も保護者も実感できている。
家庭への連絡も、電話・メールなどを通じて密に取れている。

【相違点】

避難訓練に関して、定期的に行っているのだがあまり伝わっていなかった。
職員の専門性などについても周知されていないことがあった。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- ・プログラムの多様さ
- ・送迎の台数、運転手が多いのであまり待たせず短時間で往復できる
- ・連絡の速さ
- ・活動報告が迅速
- ・保護者学習会の実施

事業所の改善点

- ① 指導員の専門性について十分説明されていない
- ② 避難訓練を実施していても報告が不十分で保護者へ伝わっていない
- ③ 保護者学習会（懇談会）の実施形態

事業所の改善への取り組み

① について

職員・指導員の経歴・資格等を顔写真で紹介して配布。保護者会や個人面談などでも直接どういった指導員かを伝え、安心してもらっている

② について

避難訓練時の実施報告を写真入りで作成し保護者に配布。訓練週間の予定を月の予定表に入れた。

また、災害避難マニュアルをもう一度職員全体で確認し、改善点を話し合った。

③ について

なるべく参加しやすい曜日、時間帯で実施。外部から講演者を招いたりする。保護者同士の連携は方法を検討。

※送迎車 3 台と事務所をつなぐ無線機を取り付け、急な変更に対応できるようにする（12 月ごろまでに）

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

保護者と職員に同時期に評価表を記入してもらうことで、何が課題となっているのかを再確認できた。課題はひとつずつ改善していく中で、常にまた新しい問題点が生まれていないかを日々確認することが大切。

また満足度の高いサービスも明確になったので、今後のプログラムを考案する上での指針になると同時に職員の自信になり、よりよい取り組みができていくのではないかと思います。

定期的な自己評価の必要性を感じている。

事業所名 放課後等デイサービス 星の広場

担当者 今野 隆